

# かめだより

発行：医療法人鉄蕉会 亀田総合病院/地域医療支援部・地域医療連携室  
発行責任者：亀田信介 編集責任者：唐鎌房子

〒296-8602 千葉県鴨川市東町929

TEL：04-7099-1261(内線7156)

## index

P2 …がん拠点病院推進センターより

AoLani プロジェクトシリーズ

P3 …亀田総合病院内各部署のご紹介  
カスタマーリレーション室

P4 …地域医療機関さまより

P5 …当院診療科より

P6 …リハビリテーションの挑戦!

P7 …スタッフひろば

マイブーム

P8 …トピックス 勉強会・  
研修会スケジュール



# がん拠点病院推進センターより

## 当院でのPDCA サイクル：「院内の つらい患者さまを減らす取り組み」

亀田総合病院緩和ケアチーム専従看護師  
緩和ケア認定看護師 千葉 恵子

当院緩和ケアチームでは、「院内のつらい患者さまを減らす取り組み」として図1のようなPDCA サイクルに取り組んでいます。

### 【ペインスケールで評価をする】

院内では、様々な職種が自分たちの専門性をもって「痛み」をよくする取り組みを行っています。「痛み」を体験している本人にしか「痛み」はわからないため、痛みの治療には患者さまにも参加していただいています。例えば、看護師が朝・昼・夜と勤務交代の度に痛みについて「何点ですか？」と聞いています。「毎回聞かないで欲しい」、「そんなことを言われても分からない」、「めんどくさい」など色々な声を耳にしますが、とても大切なことです。

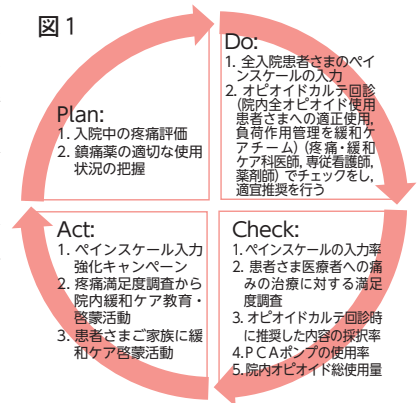
ペインスケールを患者さまに尋ねる理由は、医療者は患者さまの今の状況を知り適切な対処を行いたいと思っています。「痛み」は体験している本人にしかわかりません。痛みは様々な日常生活や治療にも影響しています。そのために、難しい表現になるかもしれませんが、数値やことばで伝えていただくようにしています。患者さまのご協力をお願いします。

### 【ペインスケールの評価とその後の対処について】

実際に数値で評価していただいたものは、痛みがない状態を「0」とし、今までにないくらい痛い状態を「10」としたときに、今の痛みを数字で言っていただいています。この評価は、各勤務で1回担当看護師は患者さまに評価してもらいます。ことばで表現できない場合は、表情や日常生活動作にどのように影響しているのか、という視点で評価をしています。

「4点」以上の点数がつく場合、痛み止めのお薬を使用するかどうか患者さまと検討することになっています。このときに、「4点以上」だから、必ず鎮痛薬を使用するというのではなく、お薬以外の他の方法で痛みが和らぐのであればその対処方法も検討していきます。例えば温める、冷やす、擦る、姿勢を整える、などすることで痛みが楽になるのであれば、これらの方法で対応することもあります。患者さまがそれぞれ工夫して対応されていることもあると思いますので、是非看護師に教えてください。

図1



### 【オピオイド（医療用麻薬）の適正使用】について】

○オピオイドの使用量は疼痛緩和の指標のひとつに挙げられています。オピオイドを適切に使用しているかチェックすることは、患者さまの痛みを和らげ、闘病生活や日常生活が安心して過ごすことにつながるひとつの指標となります。

○当院では、オピオイドを使用している全入院患者さまの痛みの評価（ペインスケール）を基に疼痛評価について疼痛・緩和ケア医、緩和ケア専従看護師、薬剤師で毎週1回チェックを行っています。

オピオイド使用に伴う副作用についてもチェックし、必要に応じて担当医・主治医に対策を推奨していくことをしています。

上記の取り組みに加えて満足度調査を行っています。昨年度調査させていただきました満足度調査では、8割以上の患者さまは満足と回答してくださいました。しかし2割弱の患者さまは我慢されているということでもあるので、痛みについて引き続き調査、介入をしていきたいと思っています。

～ 院内ネットワークから地域ネットワークへ ～

## 地域医療連携と AoLani プロジェクト

アオラニ



### シリーズ 11：AoLani で考えるデータ活用

鉄蕉会 C10 中後 淳

シリーズ-10では今年5月に亀田IVFクリニック幕張へ実際にAoLaniを導入したことについてお話ししました。今回はデータ活用についての考え方やトピックスについてお話しします。

最近メディアなどでもIoT（アイオーティ：モノのインターネット）やAI（エーアイ：人工知能）などが取り上げられることが増えてきました。これらは世の中にある多種多様で膨大な情報を分析し、活用する技術です。囲碁の世

界ではコンピュータがプロ棋士に勝ったり、車の自動運転やヘルスケア機能付きの腕時計など、各分野で急速に進化を遂げています。医療の世界でも、画像診断や創薬の分野で活用が進んできています。

亀田グループでも膨大な患者さまのデータを、医療の質の向上や診断サポートに使うための事業を進めています。まずは大前提になるデータを活用できる基盤を作らなくてはなりません。現在亀田グループが使用している電子カル



# メディカルレポート

## 「コンシェルジュの志」

コンシェルジュ 吉田綾子

「Always Say YES!!」これは当院の合言葉です。患者さまからの要望には「まずYES」と応えます。困難な要望に対し「NO」と応えるのは簡単で楽なことですが、「NO」と応えた時点で全ての可能性はゼロになってしまいます。「病院だから…」をやめ、どうしたら要望に応えられるか、その可能性を探すチャレンジ精神こそが重要だと考えています。

この精神を現わしているのが私たち「コンシェルジュ」です。コンシェルジュというとホテルやデパートには当たり前のように配置されお客様さまの要望に応えています。病院こそ心身ともに弱った患者さまからの要望に応えるために必要であると当院は考えています。患者さまは良い医療を求め来院されますが、医療以外の場面で生活に制限が設けられ、しなくてもいいような我慢をせずに、安心して快適な療養生活を送ることができるよう、あらゆる要望を一括して引き受け、様々なサービスを提供させていただいております。

また、患者さまにとって入院生活は「非日常」ですから、「日常」を感じていただけるようなサポートをすることが大切です。ご家族や友人など患者さまを元気づける重要な方々にも安心していただけるようにサポートを行っています。具体的には、毎朝新聞を読みたい患者さまには新聞配達サービス、買い物をしたいけれど一人では不安な患者さまにはエスコートサービス、病室から出られない患者さまには買い物代行サービス、院内で揃わない品物があれば市内へ出向きます。遠方から来院されたご家族には宿泊

施設の案内や手配、院内の案内や交通手段の案内、宅配便の集荷、その他「よろず相談窓口」を担っておりますが、ここからここまでといった決まりはありません。患者さまや来院される方々に「満足いただけるよう、あらゆるサポートを行っています。」

ここからここまでといった決まりがないからこそ、「コンシェルジュ」として何より大切にしているのが「心」です。「心」には「思いやり、意思、やる気」など様々あります。要望にどう応えるかは対応したそのコンシェルジュの心で決まってしまうから、常に高い「心＝マインド」で、その方の気持ちを瞬時に汲み取り、その方にあわせた個の対応と期待を上回る対応を心がけています。また、院長からは「もともともと前へ出て」と言われています。「コンシェルジュ」にたどり着けずに困っている患者さまやご家族が、院内にご自宅にその他の場所にもいらつじやると思いますが、私たちは相手が発信するシグナルが微弱であっても、感じ取ることでできる高いアンテナを常に張り巡らせなければなりません。

そして、コンシェルジュがいてくれて良かった、安心して、患者さまやご家族はもちろん、院内の職員や他の医療機関の方々からも言っていただけるよう、ひとつひとつ丁寧大切に「心」を添え、常にチャレンジ精神を忘れずに歩んでいきたいと思っています。

今後、地域の高齢化が進み、独居の患者さまも増加する中、私たちにもっと出来ることのないだろうかと模索しています。連携医療機関の皆さまから「こんなサービスがあると助かる、こんなお手伝いをして欲しい」等のコンシェルジュに対するご要望があれば、是非お聞かせいただけますと幸いです。

だきながら、協力を得ていきたいと思ひます。

亀田グループでは、昨年「データサイエンスチーム」というデータ活用専門のチームを作りました。「診断を行う際にコンピュータが医師のアシスタントを務められないか」、「これから入院する患者さまの入院日数を予測して効率的な病院運営を行えないか」など、様々なアイデアを出しながらAoLani導入後のデータ活用に向けて準備を進めています。さまざまなIT企業と連携しながら事業を推進していますが、亀田グループの「Do&Think」、考える前にまずやってみるの精神で少しでも医療の質の向上に繋げたいと思ひます。

次回は、AoLani導入レポート第2弾をお届けできる予定です。

「Kai」は紙をデジタル化することをコンセプトに20年前に作られたため、データの活用が難しく今後のデータ活用を考えると致命的な欠点を持っています。AoLaniはデータの活用をコンセプトにしています。では、医療の質の向上や診断サポートのために活用しやすいデータとはどのようなものでしょうか？いくら文章表現がうまくても文章表現ではコンピュータが理解するにはまだまだ難しく、コンピュータが理解しやすい要素の組み合わせによる表現に変えることが必要になります。入力の方法をルール化するということが、現場の医師や看護師の皆さんは業務変化の負担がかかるかもしれません。なので、これを進めた先のメリットは計り知れないものということを理解していた





## 地域医療機関さまより



医療法人社団 **花の谷クリニック**

院長 伊藤 真美

1995年、千倉町に、緩和医療を一つの柱にした花の谷クリニックを開院して、21年が過ぎた。クリニックは、一般内科外来と14床の入院ベッドをもつ有床診療所であり、訪問診療・訪問看護を行う在宅支援診療所でもある。2013年には、外来棟側の庭のスペースに、思うところがあって、スープのよろずや「花」を開店した。日替わりスープとよろず介護サービスを行うお店である。そして「原子力発電のない国」「戦争のない世界」「死刑制度のない社会」という3つの願いを届けるお店でもある。



スープのよろずや「花」

思うところがあったのは、この21年間の医療・介護を取り巻く社会の状況の変化のためである。

2000年に介護保険制度が始まった。少子高齢化社会での家族介護は限界であり、介護は社会で担うものという理念であった。制度の見直しが行われるごとに、介護度認定に基づく介護サービスの中身は制限され、自己負担も引き上げられてきた。介護は社会で担うという公助の充実をうたった介護保険は、今年から始まった段階的改正で、自助、共助を奨励する介護保険となり、発足当初の公的保険からは様変わりとなる。

医療保険も、大きな転換期を迎えている。誰もが加入できるようになって、50年以上が経過した世界に誇れるものであった日本の国民皆保険制度は、国民健康保険が赤字になり、見直しが行われ、自己負担額のアップ、混合診療の段階的解禁などによってもまた、介護保険と同様に国民皆保険制度崩壊の危機に瀕している。

アメリカの次期大統領にトランプさんが選ばれ、TPPは廃止される事になりそうだが、そもそも「TPPの最大の目的は医療です。これはほとんど報じられません」と北海道がんセンター名誉院長であり、放射線治療の臨床医として約40年もの間、医療の現場に立ってきた西尾正道氏は語っている。「日本の医療市場を開放せよ」という米国の露骨な要求と、米国医療の悲惨な実態を見てきた人からの発言である。

2015年、安保関連法が強行採決によって成立し、それに基づいて、自衛隊の海外派遣がなされ、日本も戦争当事国となる事をいとわない国になった。2016年7月の参議院選挙で与党が国会の3分の2を占める事態となり、国民が安倍政権のその方向性を支持したことになる。しかし、安倍政権の目指すところは、「個人」の尊重よりも、「国家」を重視し、新自由主義に基づいた経済優先の国作りである。介護保険も、医療保険も、その流れのなかであっての改正である。本当に、私たちはそれを望んでいるのだろうか。

冒頭に書いたスープのよろずや「花」の3つの願いは、医療・介護に携わる私の仕事と同一線上にある。原子力発電は、現在を生きる私たちにとっても、未来に生まれるいのちにとっても、健康を害する極めて危険なものである。そして、戦争は、最大の健康阻害因子である。また、先進国で日本とアメリカの一部の州、シンガポールにのみ施行されている死刑制度は、「人として許されない人殺しが、国家の名の下には許される」という意味で戦争と同義である。健康を守る医療者として、いのちを軽んじる行為を許してはいけないと考えている。

狭い専門領域の中に閉じこもることなく、地域でのいのちの連鎖を大事に、組織とではなく、そこに働く人との関わりを大切にして皆様と連携し、これからの時代に求められる医療や介護に、携わっていききたいと思う。



# 当院診療科より

医療法人鉄蕉会 亀田総合病院  
救命救急センター長・救命救急科部長  
不動寺 純明



亀田総合病院救命救急センターは三次救急といわれる重症・重篤疾患，多発外傷，中毒などにも対応しますが，南房総地域の救急センターとしてすべての急性期疾患にも対応しています。平成25年度の救命救急センター受診者数は25,904人，うち救急車搬送は4,205件，ドクターヘリ搬送は133件でした。また，東京都からの依頼で，伊豆諸島からのヘリ搬送を受け入れており，平成25年度は11件でした。

今回は救命救急センターの特徴を紹介します。

## 院内トリアージ

災害医療などでトリアージという言葉が知られるようになりましたが，救命救急センターでも診療の順番を決めるためにトリアージを行っています。最初に3日前からの頭痛があり脳梗塞が心配で来院された人，次に前日からの38度の発熱があり来院された人，遅れて気管支喘息発作で呼吸困難で来院された人の3人がいたとします。すべての患者さまは緊急性があると考え救命センターを受診されました。これを順番通りに診療すると3番目に来院された患者さまは命を落とす可能性があります。そのためトリアージナースという専門看護師が，来院された患者さまの症状，状態を一旦把握させていただき，診療の順番を決定します。それによって重篤な患

者さまが遅れて受診された場合でも，状態に応じて早急に診療を開始します。つまり医学的に緊急であると判断された人から順番に診療し，手遅れになることなく治療を開始します。言い換えると，医学的に緊急性が低い場合は待ち時間が長くなりますし，場合によっては，クリニックの受診を勧めることもあります。

救急車で来院された際も，救急隊からの情報でトリアージを行い，緊急性が高い患者さまを優先して診療します。特に救急車で搬送されたという理由で診療を優先することはありませんので，場合によってはしばらくお待ちいただくことがあります。

待ち時間の短縮には心がけていますが，緊急性が高い患者さまの救命を最優先させていただきますのでご理解いただきますようお願いいたします。

## 北米型 ER (Emergency Room) 体制

当センターではいわゆる北米型ER方式をとっています。つまり，すべての救急患者を救急医が初期診療し，入院や緊急治療が必要な場合は専門診療科に依頼します。診療の途中で医師が交代することになりますので，患者さまにとっては複数回同じような診察をされる場合があります。一方，初期対応の専門医と疾患の専門医の2人の目で診療することになりますので，診療の質が向上するメリットがあります。本来なら24時間すべての患者さまに救急医が対応すべきですが，現時点では救急医が不足していますので，比較的軽症の患者さまに関しては救急当番医が対応し，必要に応じて救急医と連携を取っています。また，小児は小児科医が初期診療から対応しています。

救急医はすべての急性疾患に対応できるようトレーニングしていますが，循環器，呼吸器，耳鼻科，眼科などそれぞれの診療分野の専門家ではありません。つまり，日中の亀田クリニックのように各専門診療科の医師が救命救急センターに待機し，自由に24時間受診できるわけではありません。緊急性がないと判断した場合は後日のクリニックの受診を勧めることがあります。

今回は地域医療機関との連携について紹介します。





# リハビリ テーションの 挑戦!



第4回

## 「がんのリハビリテーション」

亀田総合病院 リハビリテーション室 近藤 絵美

現在、がん生存者は全国で500万人を越え(2015年時点)、がんと共に生きる時代を迎えています。日常生活のみならず社会復帰への支援やQOLの向上が求められており、がん患者さまを支えるリハビリテーション(以下リハビリ)の必要性は増大しています。

いわゆる“がんリハ”は2006年くらいから徐々に広まってきた新しいリハビリの分野であり、2013年にはがんのリハビリテーションガイドラインも発行されました。

### 【リハビリを受ける時期は?何の目的?】

がんになると、がんそのものや治療に伴う後遺症や副作用などにより、さまざまな障害を来します。例えば、衰弱による体力低下、骨や脳への転移、麻痺、疼痛や倦怠感による活動性の低下、術後合併症、臥床による廃用症候群、抗がん剤の副作用による貧血や末梢神経障害などが挙げられます。がんのリハビリはこれらの障害の予防や機能回復・能力維持、症状緩和ひいてはQOLの改善を目的としており、がんと診断されたときから終末期まであらゆる状況に対応していきます。

図1に病期ごとのリハビリの目的と役割を表します。とくにがん医療においては、治療が始まる前もしくは実施された直後からリハビリを行い、障害が出現する前から予防的に関わるのが特徴です。



図1: 治療や療養の時期におけるがんのリハビリテーション



(出典: がん情報サービス)

### 【当院での“がんリハ”実践】

肺がんや乳がんなど外科手術後のリハビリはすでに一般的ですが、近年は抗がん剤や放射線など内科治療中のリハビリが拡大してきています。ガイドラインでも、内科治療中の運動療法について倦怠感や活動性の改善、QOLの改善がみられるため、行うよう推奨されています。当院では、疼痛や運動負荷量、リスク管理などについてリハビリ科や腫瘍内科・血液腫瘍内科の医師、時には緩和ケアチームと連携し、リハビリを実施しています。また、積極的な治療が受けられなくなった時期には、症状緩和や患者さま・ご家族の希望実現に向けて、生活環境の調整や介助方法の指導なども行っています。

入院期間が長期となる方も多いですが、その人らしいよりよい療養生活やQOLを少しでも支えられるよう、患者さまの心身に寄り添って一緒に考えながら取り組むことを重視し関わっています。

# スタッフ ひろば

地域医療連携室  
メンバーから

## 今回のご紹介内容

- ・氏名
- ①部署 / 職種
- ②自分を漢字一文字で表すと
- ③言われて嬉しい言葉



**草薙 洋**

- ①診療部 消化器外科 医師
- ②髭
- ③髪もちこたえてるよね



**蔵本 浩一**

- ①診療部 緩和ケア科 医師
- ②走
- ③A型ですか？



**丸山 祝子**

- ①看護管理部 助産師
- ②支
- ③ありがとう



**杉田 登子**

- ①地域医療連携室 看護師
- ②素
- ③ありがとう



**神作 聖美**

- ①看護管理部 看護師
- ②太
- ③一緒にいて安心する



**打野 弘子**

- ①総合相談室 看護師
- ②一
- ③ありがとう



**吉野 有美子**

- ①総合相談室 看護師
- ②笑
- ③心からの「ありがとう」



**安室 修**

- ①薬剤部 薬剤師
- ②修
- ③親子そっくりですね



**鎌田 喜子**

- ①総合相談室 MSW
- ②喜
- ③髪を切った後に「髪切った？」



**児玉 照光**

- ①総合相談室 MSW
- ②楽
- ③ありがとう



**新田 静江**

- ①亀田医療大学 老年・在宅看護学領域 教員(看護師)
- ②静
- ③生き生きしている



**栗栖 千幸**

- ①亀田医療大学 教員(看護師)
- ②栗
- ③笑顔がかわいいね



**中村 雅代**

- ①地域医療連携室 事務
- ②貫
- ③「ありがとう」



**林 裕子**

- ①地域医療連携室 事務
- ②楽
- ③おいしい



**吉野 希望**

- ①地域医療連携室 事務
- ②迷
- ③さすがですね



**番場 陽平**

- ①情報戦略室 事務
- ②平
- ③たくさん食べてね



**大橋 洋子**

- ①地域医療連携室 事務
- ②食
- ③やったね！



**黒川 亜純**

- ①地域医療連携室 事務
- ②小
- ③ありがとう



**唐鎌 房子**

- ①地域医療連携室 事務
- ②穏
- ③貴方のおかげです

## 亀田総合病院スタッフの マイブーム

### 「器」

私は、高校生時代に課題で、“環境ホルモン”について取り上げました。“環境ホルモン”とは、ある一つの物質の名前でなく、生物のホルモンの働きを狂わせてしまう物質の総称で、体内の正常な働きをするホルモンを壊すこと。その原因は、化学物質。例えば、殺菌剤、防腐剤、食品添加物など70種があげられています。何気なく食べているカップ麺などの容器にも、化学物質が微量ではあり

ますが溶け出しているとのこと。安全と思っているものには、実際は多くの化学物質が入っているのが現状。このことを知って以来、私は極力お弁当なども耐熱皿に移し換えてからレンジで温め、食品は添加物フリーを選ぶよう心掛けてきました。自身でも料理をするようになった10代後半からは、農薬の少ない野菜を選ぶなど、食材選びを注意してきました。そして今は、“器”に着眼点を置いています。せっかく食材に気をつけても、器に有害物質が使われてはいけないと、鉛やカドミウムなどの有害物質を一切使用しない安全な陶器を揃えるのが、今のマイブームになっています。環境ホルモ

ン対策というだけでなく、食材本来のうまみや甘味、香りを引き出してくれるものもあり、レンジやオーブン対応もあるので重宝しています。ほんの少しの努力で、自分の体や家族の健康も守れ、食事もおいしく楽しくできるなら、トライしてみる価値はあると思います。

小原利恵



# 勉強会・研修会スケジュール

勉強会予定をご案内致します。

毎回趣向を凝らして計画しておりますので是非ご参加下さい。

## 1. 第9回房総がんケアフォーラム

テーマ：ライフデザインノートを書いてみよう！

日時：1月14日（土）13:30～16:30

会場：亀田総合病院Kタワー13階  
ホライゾンホール

対象：一般の方・医療従事者

## 2. いすみ地域看護勉強会

4回シリーズの内、第1と2回については終了しました。

会場：いすみ医療センター2階会議室

対象：看護師・医療従事者

### 第3回 医療安全 Part-2 重大な事故対策

日時：1月17日（火）18:00～19:00

### 第4回 褥瘡管理

日時：2月24日（金）18:00～19:00

## 3. ELNEC-J ちばコアカリキュラム

～看護教育プログラム～

日時：1月21日（土）～22日（日）9:00～17:00

会場：亀田総合病院Kタワー13階  
ホライゾンホール

対象：看護師・医療従事者

## 4. 早期診断講演会

日時：1月26日（木）18:00～20:00

会場：亀田総合病院B棟7階看護研修室

対象：医師・看護師・医療従事者・行政

## 5. 化学療法講演会

日時：2月8日（水）18:00～19:30

会場：亀田総合病院Kタワー13階

ホライゾンホール

対象：医師・看護師・医療従事者

## 6. 第13回緩和ケア基礎研修会

日程：2月11日（土）～12日（日）2日間

会場：亀田総合病院Kタワー13階

ホライゾンホール

対象：医師・医療従事者

## 7. 第7回地域医療連携交流会

テーマ：地域包括ケアについて

日時：2月21日（火）18:30～21:30

会場：亀田医療技術専門学校2階多目的ホール

懇親会会場：亀田総合病院Kタワー13階

ホライゾンホール

対象：医師・看護師・医療従事者・行政



▲ 10月29日 ELNEC-J 玄々堂君津病院

